

## 正しい分別でごみ減量

### (燃えるごみ編)

普段、何げなく捨てているごみの中には、リサイクルできる資源物がまだまだ入っていることをご存じですか？

市では、平成22年度に家庭から排出された燃えるごみを分析調査した結果、リサイクルできる資源物が重量比約15%も混入しており、その多くを紙類(13・9%)が占めていることが分かりました。また、燃えるごみの最も多くを占める生ごみは約39%に達し、年間6000トン以上が廃棄されていることが分かりました。

今回は、燃えるごみの中の「紙類の分別」と「生ごみの減量」についてお伝えします。平成23年度の家庭から排出された燃えるごみは約1万7200トンで、前年度より約540トンも多く排出されています。


皆さんのひと手間や正しい分別で、ごみの減量にご協力ください。



## 正しく分別し“資源”として有効活用

ごみの分析結果から、燃えるごみに混入していた紙類は約2,400トンと推定されます。正しく分別すれば、ごみを減量し資源として有効に活用できます。

【表1】紙類の分別ポイント

分類		品目
紙類	資源になる“もったいないもの”	新聞、段ボール、雑誌・雑紙(菓子箱、名刺、メモ用紙、封筒、ダイレクトメールのチラシ)、牛乳パックなど
	燃えるごみになるもの	ダイレクトメールはがき、写真、油紙、和紙、防水加工紙、複写紙、点字用紙、レシートなどの感熱紙、複写紙など
	 容器包装リサイクルマーク	リサイクルできるもの 菓子箱、箸袋、贈答用の化粧箱、包装紙、紙袋など、紙製の容器や包装用の紙が対象品です。 容器包装リサイクルマークがあっても、市ではリサイクルできない紙 紙コップ、アイスのカップ、カップめん <small>の</small> 容器、全面が金色・銀色の紙箱、紙以外のもの(プラスチック)を混ぜて加工した紙、ビニールフィルムで表面を加工した紙袋(手で裂けない紙は、燃えるごみへ)

## 家庭でのひと手間で生ごみ減量

廃棄される生ごみは、未開封、調理前、調理後と分類できます。調理後の生ごみが、割合の多くを占めているので、「調理後の生ごみを減らすこと」が生ごみ減量になります。

【表2】生ごみ減量のポイント

	分類	割合	品目	減量のポイント
燃えるごみ中の生ごみ 約39% (年間6,000トン以上)	未開封	2%	食材、嗜好品、賞味期限切れ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・買い過ぎに注意する</li> <li>・買った物を記録しておく</li> </ul>
	調理前	3%	果物の皮、野菜の皮や芯、外葉、魚のあらなど	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食材にできる物はできるだけ使い切る</li> <li>・皮は濡らさない</li> <li>・生ごみ処理器で生ごみ堆肥化</li> </ul>
	調理後	34%	食べ残し、肉や魚の骨など	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食べ切れるだけ調理する</li> <li>・生ごみは水分をしっかりと切る</li> <li>・生ごみ処理器で生ごみ堆肥化</li> </ul>

